



☆ ・・ ☆ ・・ ☆ ・・ ★ ・・ コンビニ、ワクワク感で明暗 ☆ ・・ ☆ ・・ ★ ・・ ・・ ☆ ・・ ☆

コンビニ大手の大手の2024年3~11月期の決算は明暗が鮮明になった。ファミリーマートとローソンは「ワクワク感」を訴える販促などで、本業のもうけを示す事業利益で過去最高を更新した。一方でセブン&アイ・ホールディングスの国内コンビニ事業は営業減益に。物価高で低価格のスーパーに客足が流れがちで、商品やフェアの企画力が収益に響いている。

「背徳飯」ファミマ事業利益最高

ファミリーマートの売上高にあたる営業収益は子会社を譲渡した影響で減収だが、話題性があり、粗利の高い食品のプライベートブランド(PB)が伸びて利益を押し上げた。代表例が24年9月に発売した「背徳のコンビニ飯」シリーズだ。消費者の健康志向が高まるなかで、あえて「背徳感」を打ち出して奏功した。発売1週間で「販売総カロリー」が約9億7000万kcalに達するヒットに。ストレス解消の手段としてカロリーの高い食品への注目が高まっていることに着目して商品を開発し、来店動機につながった。



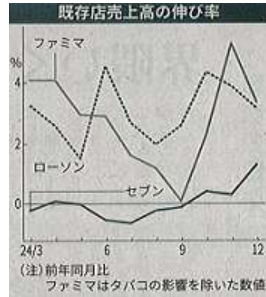
1つの商品で900キロカロリーに迫る高カロリー商品を8種類そろえた、ファミマの「背徳のコンビニ飯」



ローソンはKDDIと連携し、通信サービスの会員向けの販促を打ち出している

ローソン「からあげケン」抽選で無料効く

ローソンはKDDIと共同での販促に効果があり、好調だった。約1500万人の会員が利用するKDDIの月額サービス「Ponta(ポインタ)パス」で24年10月からローソンで利用できるクーポンを発行する施策を始めた。会員を対象として、人気のチキン惣菜「からあげケン」や限定グッズを抽選によって無料で提供した。ローソン独自の商品戦略も寄与した。



会社名	営業利益	増減率
セブン-イレブン	1829億円	▲8.1%
ファミリーマート	733億円	0.8%
ローソン	829億円	10.1%

(注)セブンはセブン&アイHDの国内コンビニセグメントの営業利益、ファミマとローソンは事業利益。増減率は前年同期比

セブンは減益

一方で、セブン&アイ・ホールディングスの国内コンビニ事業は営業利益が8%減と苦戦した。一部の消費者の間で「『セブンは(価格が)高い』という印象が広がり、ニーズに的確に応えきれなかった」のが最大の要因だ。24年6~9月既存店売上高は、客数の減少が響き、前年実績を下回った。

・・ ☆ ・・ ☆ ・・ ☆ ・・ ★ ・・ ・・ ☆ ・・ ☆ ・・ ★ ・・ ・・ ☆ ・・ ☆

-日経MJ2025.1.22-

新年明けまして



おめでとうございます



代表取締役
佐々井 久博

旧年中は大変お世話になりました。昨年もお陰様で大きな事故もなく無事に新年を迎えることが出来ました。

昨今、企業にとっては優秀な人材の確保が重要な課題となっています。これからは、佐佐井としても優秀な人材を受け入れられるような会社作りをしていかなければならないと思っています。

個人の目標は、体力維持と書類整理です。

1月17日(金)に今年の経営指針発表会を社内で行いました。

我社の今年のスローガンは・・・

『 動け!!! 』

万博会期中に観光列車



JR西日本は2025年国際博覧会(大阪・関西万博)期間中に運行する観光列車プランを発表した。「はなあかり」が大阪から尾道や敦賀へ運行するほか、「ウエストエクスプレス銀河」が山陰、山陽、紀南を走る。国内外から大阪に観光客が集まるのを機に西日本の周遊観光につなげ、オーバーツーリズム(観光公害)解消もめざす。はなあかりは24年10月に運行を始めた、全席がグリーン席以上からなる高級観光列車。25年4月5日から6月29日の土日に大阪-尾道間で運行する。瀬戸内海沿岸での1泊2日の観光利用を想定する。7月から9月には大阪-敦賀間でも運行し敦賀駅で接続する北陸新幹線の利用も含めた北陸周遊を想定する。ウエストエクスプレス

JR西、はなあかり・銀河



「はなあかり」は大阪-尾道間を運行する

銀河はまず3月21日から5月28日まで京都-出雲市間を夜行列車として運行する。6~8月には京都-下関間の山陰コース、8~10月には京都-新宮間の紀南コース。

-日経MJ2025.1.20-